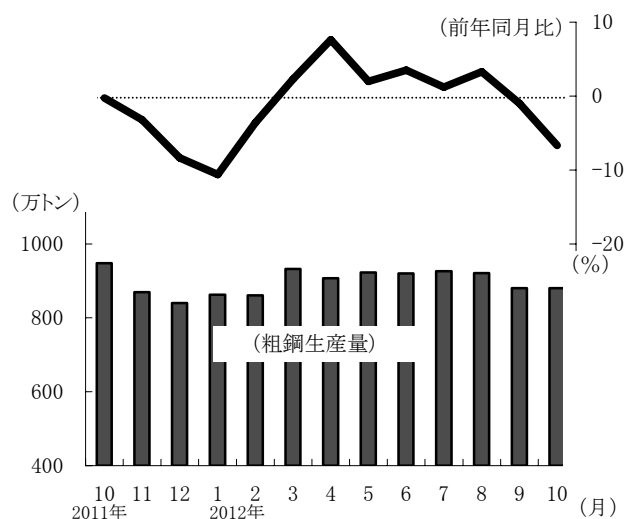


な景気後退と日中関係の悪化，国内のエコカー補助金終了による自動車の生産減や建設産業機械，造船の生産低迷を背景に，さらに超円高の長期化による輸出の伸び悩みも響き，高炉メーカーと特殊鋼電炉メーカーが生産調整を本格化した。炉別生産でみると，転炉鋼は前年同月比 5.7%減の 679 万 2,000 トンで 2 カ月連続減，電炉鋼は同 10%減の 204 万 9,000 トンで 3 カ月連続の減となった。鋼種別にみると，普通鋼が同 4.1%減の 689 万 7,000 トンで 5 カ月ぶりの減少，特殊鋼が同 15.1%減の 194 万 5,000 トンと 3 カ月連続の減となった。

1～10月の累計生産量は 9,016 万 5,000 トンで前年同期比 0.4%減となっている。需要環境は下期に入って一段と悪化しており，2012 暦年の粗鋼生産は 1 億 700 万トン前後にとどまる公算が強い。

財務省が発表した 10 月の鉄鋼貿易統計では，輸出（全鉄鋼ベース）は 332 万 8,000 トンとなり，前年同月比 1.1%減と 6 カ月ぶりに減少し，前月比では 5.7%減で 3 カ月連続の減少となった。4～9 月期まで月次平均で 350 万トンペースの高水準が続いていたが，10 月に入って減速の傾向が見え始めた。一方，輸入は 73 万 500 トンで前年同月比 7.4%減となったが，前月比では 21.1%増加した。輸出の向け先別の内訳で，アジアは前年同月比 5.0%減の 264 万 3,000 トンとなっている。このうち 9 月の反日暴動以来，自動車や家電など日系メーカーの生産が急減している中国向けは 8.2%減の 48 万トン，韓国・台湾などアジア NIE's 向けは 12.6%減の 96 万トンとなったが，他方で ASEAN は自動車生産の増加などを支えに 3.5%増の 107 万 7,000 トンと好調を継続している。その他地域では，中東向けが 37.1%増の 15 万 7,000 トン，米国向けが 16.3%増の 14 万 7,000 トンとなっている。一方，鉄鋼輸入の主要国別内訳をみると，アジアからが前年同月比 2.8%減の 63 万 4,100 トンで，このうち中国は 8.0%減の 11 万 9,200 トン，アジア NIE's が 2.1%減の 48 万 6,500 トン，ASEAN が 26.8%減の 7,900 トンとなっている。

図1 国内粗鋼生産の月次推移



◆10～12 月期 粗鋼生産計画，2,660 万トン

経済産業省が集計した第 3 四半期（10～12 月）の鉄鋼メーカー各社の粗鋼生産計画によると，前期比 2.4%減の 2,659 万 6,000 トンとなり，2 期連続で減少し 3 期ぶりに 2,700 万トンを下回るものの，依然として高水準の生産が続くと見込まれる。前月に同省が策定した 10～12 月期の粗鋼生産見通し（2,654 万トン）に比べ 6 万トン上回る。同省によると，

この計画には「中国リスク」は織り込まれておらず、日中関係悪化の影響のほか、欧州金融債務危機、中国の経済成長減速など不安材料が多い。

第3四半期の鋼材生産は前期比0.9%減、前年同期比0.7%増の2,314万トンと見込まれている。うち、普通鋼鋼材がそれぞれ0.5%減、3.7%増の1,828万トン、特殊鋼鋼材が1.9%減、9.4%減の486万トンとなっている。鋼材生産のうち、国内向けは同0.7%減、5.2%減の1,487万トン、輸出向けは同2.0%減、13.4%増の827万トンとなっている。

◆高炉4社、上期業績悪化

旧新日本製鉄、JFEホールディングス、旧住友金属工業、神戸製鋼所の高炉大手4社は、2012年度上期の業績を発表した。それによると、アジア市場における鋼材の過剰供給や円高などによる国内外の鋼材市況の下落が影響し、そろって業績が大きく悪化した。4社の経常損益（連結）は、新日鉄が195億円（前年同期942億円）、JFEHDは40億円（同506億円）、住金は108億円（同413億円）、神鋼は110億円の損（同385億円の益）となった。通期での経常損益見通しではJFEHDが450億円（6月時点の見通し850億円）、神鋼が250億円の損失（同250億円の損）となり、神鋼は11年ぶりの経常損失を見込んでいる。新日鉄住金は通期の業績予想は公表していないが、下期の経常利益は上期の両社合算の経常益（300億円）とほぼ同水準を確保したい（本部新日鉄住金副社長）としている。

◆新日鉄住金、統合効果年間2,000億円に拡大

新日鉄住金は、従来「経営統合後3年を目処に年率1,500億円規模の統合効果を目指す」としていたが、11月始めに500億円上乗せして年率2,000億円の統合効果実現を目指す目標を上方修正した。また、統合後の連結有利子負債残高が原料決済条件の統一を加味すると2兆7,000億円（新日鉄9月末1兆3,821億円）に膨らみ、負債資本倍率（D/Eレシオ）が1.3倍（同0.85）に悪化することを踏まえ、棚卸資産の削減、グループ資金の効率化、旧両社の重複資産などの売却などで約3,000億円規模の資産圧縮を実行し、財務体質の早期改善を図る。さらに、製鉄所のインフラやノウハウを活用したIPP（電力卸事業）などによる収益拡大策も検討していくとしている。

◆10月世界粗鋼生産、前年水準を2カ月ぶりに上回る

世界鉄鋼連盟が発表した世界（62カ国）粗鋼生産は、1億2,615万トンで前年同月比1.3%増となり、中国の生産量が5,910万トンと同6.6%増となった影響もあり、2カ月ぶりに前年同月実績を上回った（中国以外では同比2.6%減）。また、前月比では1.8%増と2カ月連続しての増加となった。しかし、日産量では前月比1.5%減で2カ月ぶりに減少した。製鋼操業率は76.5%と前月比1.2ポイント低下し、前年同月比でも1.4ポイント下がった。中国の日産量は前月比1.3%減、中国以外も1.6%減と、ともに2カ月ぶりに減少した。新興工業国の日産量をみると、韓国が前月比0.02%とわずかながら2カ月連続の増、インドも同0.02%増で3カ月連続の増、ブラジルも6.6%増と2カ月連続しての増となった。それに対して先進工業国では、EU27は前月比3.7%減と2カ月ぶりに減少し、北米も1.2%減と2カ月連続で減り、日本も2.8%減と4カ月連続で減少した。

1～10月の62カ国生産は、12億7,670万トンと前年同期比0.7%増となり、10月の年率生産が8月に続いて15億トンの水準を下回ったものの、11月、12月の生産が大きく減少しない限り、2012年には初の15億トンに達する可能性が高まっている。 □